



ふくおか【Good👍】農業人100

主な農産物／宿根スターチス、ダリア

川野 暁司さん (31歳) (営農地／八女市黒木町鹿子生)

人とのつながりが農業の財産

《就農のきっかけ》

農業への想いを抱いて

実家がミカン農家であった川野さんにとって、農業はいつも身近な存在でした。地元の農業高校を卒業後、大学に進学し、一般企業に就職しましたが、「いつかは農業がしたい」という気持ちはいつも心の中にあっただそうです。その理由をうかがってみると、「やっぱり父親の存在が大きい。父親の営む農業で、御飯を食べてもらって学校を出してもらった。そんな父親と同じフィールドで戦ってみたかったんだよね。」と、語ってくれました。

現在、両親はミカン栽培、本人は花き栽培と、役割分担を明確にした経営を展開しています。「花き栽培に重点化したのは、自分の工夫や挑戦の結果が毎作ごとに目に見えるし、綺麗な花が好きだから。農業は、難しいけど楽しいよね。」

《これまでの過程》

試行錯誤と挑戦のなかで

就農当初は、トルコギキョウやヒマワリを栽培していた川野さん。しかし、「周年で売上のあがる、中山間地域にあった花はないか」と、ダリアの栽培を開始したそうです。「近くにダリアの栽培をしている生産者が少なかったし、最初は本当に何も分からんけん大変やったね。自分で生産者探して、佐賀や柳川まで直接出かけていって、栽培方法教えてもらったり球根分けてもらったりしたよ。普及指導員の紹介で、県内他産地の生産者にもお世話になったよ。」と川野さん。

現在、スターチス栽培ではJA生産部の部長を担っており、「ブルーファンタジア」からの枝変わり品種「スカイブルーファンタジア」の栽培に挑戦中です。



プロフィール

- 家族構成／本人、妻、父、母、祖母 ■前職／会社員
- 営農年数／約5年 ■耕作(経営)面積／宿根スターチス20a、ダリア30a
- 販路／JA共販

《これからの展望》

“川野さんの花”のファンを増やしたい

「『川野さんの育てた花が買いたい』ってってもらえるような農家になりたいちゃんね。お客さんの信頼と期待を裏切らんように、できるかぎり周年出荷できるような栽培を目指しとるよ。」実現にむけた第一歩として、現在、直接取引や展示会への出品、ポップの作成など“川野さんの花”の情報発信に取り組んでいるそうです。

「その次の目標は、スターチスやダリアの生産者をもっともっと増やして、いつかは地域ブランドになるような産地をつくることだね。」と、将来の夢を楽しそうに語ってくれました。



Good👍 成功のためのポイント

色んな方向に自分のアンテナを張って、とにかく情報をキャッチすること。農業分野だけに限らず、他産業からも得られるものは大きい。農業は、ひとりよがりになって自分の考えに凝り固まってしまったら、成長も発展もできないのでは。